2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の遥（はるか）は、夜勤の多い看護師の母に代わり、小学三年生の弟の湊（みなと）の夕食を作っている。高校受験が近づくなか、その日の夕方も、遥は参考書を机に広げたまま、台所に立っていた。

鍋の底から、焦げたにおいが立ちのぼった。遥があわてて火を止めたときには、カレーは黒ずんだ塊になりかけていた。数学の問題を考えながら、つい、かき混ぜる手を止めてしまったのだ。

「あ、焦げてる。」

食卓から顔を出した湊が、小さな声で言った。責めるつもりのない、ただの感想だったのだろう。それなのに、遥の口からは、①自分でも思いがけないほど、とげのある言葉が飛び出した。

「文句があるなら、自分で作れば。」

湊は何も言い返さなかった。ふだんなら「ごめん、ごめん」と笑ってごまかす弟が、うつむいたまま、②黙ってカレーを口に運んだ。焦げの苦味に顔をしかめながら、それでも「おいしいよ。」とだけ、ぼそりと言った。

その一言が、遥の胸に刺さった。小学三年生の弟に、気をつかわせている。母が夜勤の日は夕食を作ると決めたのは、自分だったはずなのに。

食べ終わると、湊は自分の皿を流しに運び、遥の隣に立った。

「ぼくが洗う。お姉ちゃんは、勉強してきなよ。」

「いいよ、これくらい。」そう答えながら、遥は、③蛇口から落ちる水の音を、しばらく黙って聞いていた。

「……さっきは、ごめん。湊は何も悪くないのに。」やっと出た声は、小さかった。

「だいじょうぶ。」湊は首を横にふった。「お姉ちゃんが毎日作ってくれるの、ぼく、ちゃんとわかってるよ。焦げたのも、きらいじゃないし。」

そのとき、冷蔵庫の扉に貼られた一枚のメモが、遥の目に入った。朝、母が出かける前に残したのだろう。

〈遥へ　いつもありがとう。夕ごはんは、お惣菜を買ってもいいからね。無理は、しないで。母〉

遥は、メモを二度読み返した。ひとりで全部やらなければと思いこんでいたのは、自分のほうだったのかもしれない。

「明日は、いっしょに作ろうか。」

遥が言うと、湊は目を輝かせて、「うん。」と大きくうなずいた。

④洗いおえた鍋の底には、うっすらと焦げの跡が残っていた。けれど遥は、その跡を、もう、いやだとは思わなかった。

（注）惣菜（そうざい）……毎日の食事のおかずとして、店で売られているもの。　夜勤（やきん）……夜に働くこと。

問1 ①「自分でも思いがけないほど、とげのある言葉が飛び出した」とありますが、このときの遥の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア受験勉強の疲れや焦りから、弟の何気ない一言に強く言い返してしまい、自分の言葉に驚いている様子。

イ弟の失礼な態度に本気で腹を立て、わざと厳しい言い方で、弟をしつけようとしている様子。

ウ夕食を焦がしたことを隠そうとして、その責任を弟に押しつけようとしている様子。

エ弟に嫌われてもかまわないと考え、冷たい態度をとって距離を置こうとしている様子。

問2 ②「黙ってカレーを口に運んだ」とありますが、このときの湊の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア姉を責める気持ちはなく、焦げの苦さをこらえて食べることで、姉の気持ちを気づかっている。

イ姉の言い方に腹を立て、何も言わないことで仕返しをしようとしている。

ウカレーが焦げてしまったことにがっかりして、食べる気力をなくしている。

エ姉に叱られるのがこわくて、何を言ってもむだだとあきらめている。

問3 遥は「明日は、いっしょに作ろうか。」と言いました。遥がそのように言ったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、無理、気づかいの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。なお、「気づかい」は「気づかって」のように形を変えて使ってもかまいません。（6点）

問4 ③「蛇口から落ちる水の音を、しばらく黙って聞いていた」とありますが、このときの遥の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア弟のやさしさにふれて、八つ当たりをした自分を恥じ、あやまる言葉を探している。

イ弟に家事をまかせてよいものかと迷い、母に電話をかけるべきか考えている。

ウ弟の申し出をありがたく思えず、どう言い返そうかと考えている。

エ洗い物が思ったより多くて、うんざりして言葉も出なくなっている。

問5 ④「洗いおえた鍋の底には、うっすらと焦げの跡が残っていた。」で始まる、本文の結びの二つの文には、どのような効果がありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア焦げの跡が残っていても気にならなかったと描くことで、完璧にこなそうと自分を追いつめていた遥の気持ちが和らいだことを印象づけている。

イ洗い物が最後まで終わらなかったと描くことで、これからも遥の苦労が続くことを暗示している。

ウ焦げの跡をくわしく描くことで、湊の料理の腕前が上達しないことを強調している。

エ冒頭と同じように焦げへの不満を描くことで、遥の気持ちが最初から変わっていないことを示している。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「鍋の底から、焦げたにおいが立ちのぼった。」と、においの描写から始めることで、場面の様子を読者に伝えている。

イ湊の「おいしいよ。」ということばに、姉を気づかう思いがこめられている。

ウ本文は湊の視点から語られ、遥の気持ちは、湊の推測によって描かれている。

エ母は場面に登場せず、冷蔵庫のメモを通して、母の思いが伝えられている。

オ冒頭は夕食の日の夕方、結びは翌朝の場面で、時間の経過が示されている。

2

問1⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

傲岸な態度を改めるよう、先輩にさとされた。（読み）

問1⑵（各2点） 古い時計が静かに時を刻む音だけが聞こえる。（読み）

問1⑶（各2点） 地域の祭りを町内会がモヨオす。（書き）

問1⑷（各2点） いったんおさまった議論がサイネンする。（書き）

問2 次のア～エの文の――部の中から、品詞が連体詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア穏やかな海が広がっている。

イいわゆる天才にも悩みはある。

ウ美しい景色に心を奪われた。

エずっと遠くまで歩いた。

問3 次の文は、いくつの文節に区切ることができますか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

兄は毎朝公園で犬と散歩をする。

ア5つ
イ6つ
ウ7つ
エ8つ

問4 次の文の――部の「の」と同じ働きをしている「の」を含む文を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

妹の作ったクッキーを食べた。

アあれは私のかばんです。
イ雨の降る日は家で読書をする。
ウこの帽子は姉のだ。
エ行くの行かないのと言い争う。

問5 次の文を単語に区切ったとき、単語はいくつになりますか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

弟は新しい靴を買ってもらった。

ア7つ
イ8つ
ウ9つ
エ10つ

問6 次の場面にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

マラソンの完走という遠い目標をめざす春花さんは、いきなり長い距離を走るのではなく、まず家の前の道を一周することから始めた。

ア千里の道も一歩から
イ石の上にも三年
ウ急がば回れ
エ猿も木から落ちる

問7 次の文の〔　〕にあてはまる四字熟語として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

健康のために始めたダイエットで、食事をぬいて体調をくずしてしまうのは、〔　〕である。

ア本末転倒
イ一石二鳥
ウ自画自賛
エ以心伝心

問8 O中学校の図書委員会では、「読書週間のポスター」について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、〔　Ⅰ　〕にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

【話し合いの様子】

司会「今日は、読書週間のポスターの内容を決めます。まず、案を出してください。」

石井「おすすめの本の表紙を並べる案です。どんな本があるか、ひと目でわかります。」

森「いい案ですが、本の数が多いと、ポスターがごちゃごちゃして、見にくくならないでしょうか。」

司会「〔　Ⅰ　〕では、表紙は各学年から三冊ずつにしぼって、学年ごとに色分けしてはどうでしょう。」

ア森さんの案には反対ということですね。

イ本の数は関係がないので、石井さんの案のとおりに決めましょう。

ウ見にくくなるという意見が出ました。見やすさの面から、案を整理する必要がありますね。

エ石井さんの案は取り上げず、新しい案を最初から出してください。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

初めて訪れる町でも、スマートフォンの地図アプリを開けば、目的地まで迷わずに着くことができる。①画面の青い点を目で追うだけで、私たちは、地図を読み解く苦労から解放された。かつては、紙の地図を広げ、方角を確かめ、目印を探しながら歩くのが当たり前だった。

ところが、地図アプリを頼りに歩いた道を、あとで思い出そうとしても、ほとんど覚えていないという経験はないだろうか。それは、②歩いている間、私たちが「道を考える」という仕事を、技術に任せているからである。紙の地図で歩く場合は、「あの川を渡って、次の角を右へ曲がる」というように、頭の中で道すじを組み立てなければならない。その過程で、周囲の景色や、町全体の位置関係が、自然に頭に残っていく。

たとえば、同じ町を、一人は地図アプリで、もう一人は紙の地図で歩いたとしよう。あとで、歩いた町の地図をかいてもらえば、③紙の地図で歩いた人のほうが、はるかに正確にかけるにちがいない。便利な道具を使った人が、かえって町のことを知らないままになる、という逆転が起こるのである。

だからといって、技術を手放せと言いたいのではない。④大切なのは、技術が自分の何を肩代わりしてくれているのかを、意識して使うことだ。急いでいるときはアプリに任せ、時間にゆとりのあるときは、あえて紙の地図で道すじを確かめてみる。そのように、場面に応じて使い分けることは、誰にでもできる。

道具は、使う人の力を伸ばすこともあれば、眠らせてしまうこともある。⑤便利さを受け取るときほど、その陰で自分が手放しているものに目を向けること。それが、技術とよい関係を築くための第一歩なのである。

（注）解放（かいほう）……問題や苦労などから、自由にすること。　肩代わり（かたがわり）……他人に代わって、仕事や負担を引き受けること。

問1 ①「画面の青い点を目で追うだけで、私たちは、地図を読み解く苦労から解放された」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア方角を確かめたり目印を探したりして道を調べる手間をかけなくても、目的地に着けるようになったということ。

イ地図アプリのおかげで、町の位置関係を、以前より正確に覚えられるようになったということ。

ウ紙の地図を使うことが禁じられ、地図アプリしか使えなくなったということ。

エ目的地までの距離が短くなり、歩く時間が少なくなったということ。

問2 ②「『道を考える』という仕事」とありますが、本文でこの仕事にあたるものとして説明されているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア方角を確かめながら、頭の中で道すじを組み立てること。

イ出かける日の天気を調べて、服装を決めること。

ウ目的地までの電車の料金を調べること。

エ町にある店の名前を、すべて覚えること。

問3 ③「紙の地図で歩いた人のほうが、はるかに正確にかける」とありますが、筆者は、紙の地図で歩いた人のほうが正確にかけるのはなぜだと考えていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、道すじ、位置関係の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「大切なのは、技術が自分の何を肩代わりしてくれているのかを、意識して使う」とありますが、これにあたる行動として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア電卓で計算するとき、計算の手間を電卓に任せていることを意識し、時間のあるときは筆算で確かめてみる。

イ電卓を使うと考える力が落ちるので、どんな場面でも電卓はいっさい使わないと決める。

ウ計算はすべて電卓に任せ、答えが合っているかどうかは確かめないことにする。

エ電卓の使い方を、友達に教えてあげる。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア冒頭で、身近な地図アプリの例を挙げ、読者を話題に引き入れている。

イ「たとえば」を用いて、二人が町を歩く場面を想定し、主張を具体的に示している。

ウ地図アプリの開発者への取材をもとに、アプリの仕組みを詳しく説明している。

エ「だからといって」を用いて、直前の内容から予想される誤解を打ち消している。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア道具は力を伸ばすことも眠らせることもあるので、便利さの陰で手放しているものを意識しながら、場面に応じて使い分けることが大切だ。

イ地図アプリは人の力を弱めてしまうので、使うのをやめて、紙の地図に戻すべきだ。

ウ技術は日々進歩しているので、新しい技術はできるだけ早く使い始めるべきだ。

エ方向感覚は生まれつき決まっているので、地図アプリを使うかどうかは気にしなくてよい。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。口語訳をつけていない部分もあります。）（16点）

昔、ある国に、大将ありけり。敵の城を攻めんとて、子の刻に陣を出で、①丑の刻に城のもとに着きぬ。（昔、ある国に、大将がいた。敵の城を攻めようとして、子の刻に陣を出発し、丑の刻に城のもとに着いた。）

大将、兵どもを集めて言ふやう、「②合図あるまでは、勝手に先を争ふべからず。」と。兵ども、命に従ひ、息を殺して待ちけり。

寅の刻、東の空、ようやく白みければ、大将、法螺貝を吹かせ、一度に攻め入りぬ。城の兵ども、油断して眠りゐたれば、あわて騒ぎて、③ほどなく門を開きぬ。

大将、勝ちても、おごる色なく、兵どもに言ひけるは、「④今日の勝ちは、わが一人の力にあらず。兵ども、心をひとつにしたればこそ。」と。

（注）陣（じん）……軍勢が本拠として構えているところ。　法螺貝（ほらがい）……合図のために吹き鳴らす、大きな貝の笛。
眠りゐたれば……眠っていたので。

問1 ①「丑の刻」とありますが、これは現在のおよそ何時ごろにあたりますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア午前0時ごろ
イ午前2時ごろ
ウ午前4時ごろ
エ午後2時ごろ

問2 ②「合図あるまでは、勝手に先を争ふべからず」とありますが、大将が兵どもに命じた内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア合図があるまでは、勝手に先を争ってはならない。
イ合図があるまでは、勝手に先を争うことができない。
ウ合図があるまでは、勝手に先を争うつもりである。
エ合図があるまでは、勝手に先を争うはずである。

問３ ③「ほどなく門を開きぬ」とありますが、城の兵どもがほどなく門を開いたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（４点）

ア油断して眠っていたところを、いっせいに攻め込まれて、あわてたから。

イ大将の吹く法螺貝の音を聞いて、味方の援軍が来たと思いこんだから。

ウ城の中の食料が尽きて、戦う力が残っていなかったから。

エ東の空が白んだので、敵が引き上げたと思ったから。

問４ ④「今日の勝ちは、わが一人の力にあらず」とありますが、大将は、勝てたのはなぜだと考えていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（４点）

（以上で問題は終わりです。）